

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーションアクティビティⅡ Recreation Activity Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(レクリエーションインストラクター資格取得者は必修)	レクリエーションアクティビティⅠを履修済みのこと
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
レクリエーションアクティビティⅠ レクリエーション理論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
レクリエーション理論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新村 悦子	非常勤講師室	授業において指示する		授業中に指示します
授業の概要 この授業では、現場における実習につながるような援助技術法や実技種目を展開し、その技術の習得をはかるとともに、援助者としての態度を学ぶ。				
授業の目標 ①対象者に合わせた「素材」「アクティビティ」の提供をする援助手法が理解できるようにする。 ②色々なレクリエーション財をアレンジすることができるようにする。				
授業の方法 グループワークなどを取り入れた講義と、レクリエーション実技を組み合わせた演習方式で行います。				
学習の成果(学習成果) ①対象者にあった財(素材、アクティビティ)を対象者に提供することができる。 ②財(素材、アクティビティ)をアレンジし、対象者に援助することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	地域とレクリエーション ～レクリエーションを通した「つながり」の再生・創造			
第2回目	目的に合わせたレクリエーションワークと「素材アクティビティ」選択			
第3回目	アクティビティの展開方法			
第4回目	「素材・アクティビティ」の提供と相互作用の活用			
第5回目	対象者に合わせたレクリエーションワークとは			
第6回目	対象者に合わせたアレンジの技術			

第7回目	段階的アレンジの応用①	
第8回目	段階的アレンジの応用②	
第9回目	グループレクリエーション援助(福祉レクリエーション)	
第10回目	レクリエーション・プログラム援助案の作成①	
第11回目	レクリエーション・プログラム援助案の作成②	
第12回目	レクリエーション・プログラム援助案の作成③	
第13回目	レクリエーション・プログラム援助案の作成④	
第14回目	ともに生きる社会・ともに遊ぶ文化を求めて 遊びで見つける新しい自分①	
第15回目	ともに生きる社会・ともに遊ぶ文化を求めて 遊びで見つける新しい自分② 授業のまとめ	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度		10%
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		90%
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
レクリエーション支援の基礎(財団法人日本レクリエーション協会)		
履修上の留意点・ルール		
レクリエーションアクティビティⅠ、Ⅱの順番で履修すること。		